

I 平成25年度 小中学校長研究協議会における提言・提案

今年度は、20分科会127分散会において、自己選択によるテーマ別グループ協議を行い、97%の会員より協議内容が充実したものであったとの回答を得た。その中で集約された提言・提案は、校長の経営力の向上と関係機関・団体に向けての要望の視点から、総務員がとりまとめ、分科会ごとの絞り込みを行った。その最終まとめとして、以下の提言・提案を行う。

提 言	取 組 の 方 向 性	取 り 扱 い
<p>提 言 1 「育てる」経営で、教職員の人材育成を</p> <p>校長は「育てる」経営意識を持ち、教職員の資質・指導力の向上や能力・意欲を高める計画的な人材育成に取り組む。</p>	<p>① 経験年数に関わらず、教職員に積極的に学校経営に参画させるなどの機会を与える。</p> <p>② 教職員の各世代に応じた資質・指導力の向上を目指し教職員個々の人材育成計画を作成する。</p> <p>③ ミドルリーダー育成を目指し、県学校長会として具申しながら、県主催研修の一層の充実に努める。</p> <p>④ 今日的課題に対して専門家や民間人を招請し、研修会の充実にを図る。</p>	<p>小中学校長研究協議会におけるテーマ「学校経営（人材育成）」とする。</p> <p>→ 県教育委員会への要望とする。</p> <p>→ ブロック・郡市に提案をする。</p>
<p>提 言 2 学校と家庭・地域社会との連携・協力の強化を</p> <p>校長は、学校・家庭・地域社会との連携・協力を一層進め、自校の教育力の向上に取り組む。</p>	<p>① 学校経営方針やグランドデザインを保護者・地域へ情報発信し、学校・家庭・地域社会の連携の役割について啓発を図る。</p> <p>② 校長自ら積極的に地域に向くとともに、地域の活動・行事への子供の参画や教職員の参加を進め、繋がりを深める。</p> <p>③ 保護者・地域に向けた道徳の授業公開を実施する。</p> <p>④ 地域の人材を積極的に活用し、教育活動の充実と多様化を目指す。</p>	<p>小中学校長研究協議会の「家庭・地域との連携」で扱う。</p> <p>→ 県学校長会として全校で実施する。</p> <p>→ 小中学校長研究協議会におけるテーマ「地域力の活用」とする。</p>
<p>提 言 3 校種間の積極的な連携により教育力の向上を</p> <p>校長は、学びや育ちの連続性を意識した小中一貫・小中連携の教育活動を充実させることで、子供たちの課題の解決と学校の教育力の向上に取り組む。</p>	<p>① 校長同士の連携を密にするとともに、情報交換を積極的に進める機会の確保を図りながら、教育活動を推進する体制づくりをする。</p> <p>② 課題を把握し、その解決に向けて指導力向上と教職員の意識改革を図る研修を実施する。</p> <p>③ 小学校高学年における専科教員の授業を積極的に推進する。</p> <p>④ 地域と共に進める防災教育の充実に努める。</p>	<p>→ 小中学校長研究協議会やブロック研修の活用を図る。</p> <p>→ 小中学校長研究協議会の「小中一貫・連携」で扱う。</p> <p>→ 調査研究部で実態調査をする。</p> <p>→ 小中学校長研究協議会の「防災・安全教育」で扱う。</p>
<p>II 教育諸条件の整備や関係機関・団体に向けての要望・提案</p>		
<p>(1) 国・県教育行政機関に対して</p> <p>① 教務主任の別枠配置の要望</p> <p>② 生徒指導に関わる人的配置の拡充に向けた要望</p> <p>③ 個に応じた支援体制の整備 (特別支援学級の新設に関する児童生徒数の見直し) (インクルーシブ教育システムの構築に向けた条件整備)</p> <p>④ 部活動の効率化(外部講師の活用等)</p>	<p>⇒</p> <p>○ 調査研究部で実態を把握する。</p> <p>○ 行財政委員会の「教育行政に関する要望書」作成に生かす。</p>	
<p>(2) 市町村教育行政機関に対して</p> <p>① 支援を要する児童生徒のための介助員等の充実にに向けた要望</p> <p>② 教育諸条件の充実にを図るための教育予算確保に向けた要望</p>	<p>⇒</p> <p>○ 郡市校長会において実態を把握して、「要望書」作成に生かす。</p>	
<p>III その他の要望・意見等について</p>		
<p>・別紙で取り上げた提言・提案等については、平成26年度の小中学校長研究協議会の分科会の協議の柱に反映させて、深めていく。</p> <p>・「小中学校長研究協議会の意見等」については、後日、提言と併せて、ホームページに掲載する。</p>		